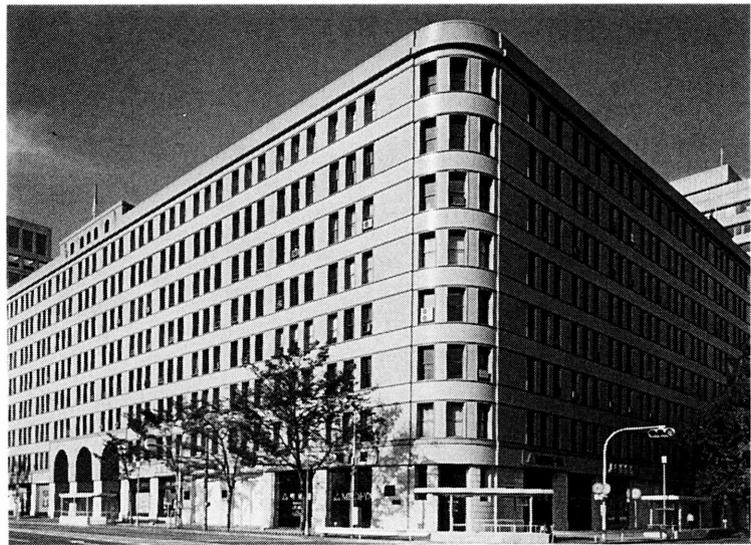


## BELCA賞 ロングライフ・ビルディング部門 表彰

建物名称	丸ノ内ビルヂング
所在地	東京都千代田区丸の内
建物用途	事務所
竣工	1923年2月20日
所有者	三菱地所株式会社
設計者	三菱地所株式会社
施工者	株式会社 大林組 フラー建築株式会社
維持管理者	三菱地所株式会社



### 審査評

丸ノ内ビルヂングは、我が国の産業革命が一応の終結をみ、資本主義体制も一応の成立をみた時期の代表的なオフィスビルとして設計され、建設された。明治期には棟割り長屋式が一般的であったわが国のオフィスビルは、大正期に入ると共同の廊下・階段・エレベーター・便所などを持ち、その結果貸しフロア部分はテナントの要望に応じて自由に区分できるようになり、外観上も余分な装飾を排除した、合理的で機能的な近代的オフィスビルに変わりはじめています。丸ノ内ビルヂングは、こうした流れを代表するものであると共に、東京駅の正面に皇居のみどりを背景にして建つ姿は近代化に向けて努力する日本の産業社会の象徴として多くの人々に親しまれています。また、1階全部を使った商店街はその後の大型オフィスビルの先達例ともなっている。アメリカの技術によって建てられたが、関東大震災前年の大正11年4月(1922年)にM6.9の東京地震に襲われて、日本の技術で耐震補強をして、大正12年の関東大震災直前にほぼ現在の姿に完成したという点でも、我が国の近代建築史上に特筆される建築である。

建築当時のオフィス機能や建築技術は現在とは比較にならないほどの差異があるが、竣工後70年を経過するなかで、時代の状況と要請に対応した改修・更新が逐次施されて現在に至っている。こうした改修・更新は、耐震補強だけではなく、外装、内装、エレベーター、照明設備、防火設備、受変電設備など建築の全領域に及んでいる。その結果、現在でも丸の内のビジネスセンターを代表するオフィスビルの一つとして機能し続けている。機能的にも、技術的にも、時代の最先端に位置づけられるオフィスビルにとって、こうした改修・更新は宿命的なことであるが、本建物は建築が長い寿命を全うするための維持保全の重要性をよく示している好例である。